

プログラミング応用のレポートの書き方

1. 表紙 (※表紙見本(朱書き部分に記入)参照)

<http://cobayasi.com/prog/授業数/hyoushi> 授業数.pdf をダウンロードし、以下の項目を手書きで記入する
(例：第1回授業の場合 <http://cobayasi.com/prog/1st/hyoushi1.pdf>)

- 第1回提出日～第4回提出日：レポートを提出する日
 - 学生証番号、氏名
- 【注意】表紙は、レポートが受理されるまで同じものを使う。

2. 内容 (※内容(プログラム)見本参照)

- プログラム
 - 全ての行にコメントを付ける。
 - インデントは正しく付ける。
- 実行結果
 - 実行結果が複数ある場合、なるべく網羅するように複数出力する。
- 体裁
 - 問題ごとに改ページを行うこと。
 - 文字の大きさ：10.5ポイント。プログラムは基本的に9～10.5ポイントとするが、数十ページにわたるような長さの場合は、縮小印刷をして良い。
 - 日本語のフォント：MS明朝またはMSゴシック。
 - プログラムの英数字フォント：Century, Times New Roman, Arial 等を利用すること。
 - 図・表がある場合は、図番号を図の下に、表番号を表の上につけること。

3. 手書きの問題について

考察課題や数式等について「手書き」と指定されているものは、適切な余白を開けて印刷し、手書きすること。

4. 数式の説明について

メニューバーから「挿入⇒テキスト(オブジェクト)⇒Microsoft 数式 3.0」を選択すれば、数式を Word 中に入れることができる。

5. 変数の値の変化について

問題文中に、「変数の値をレポートに記しなさい」とある場合は、以下に示す要領でプログラムに行番号を記し、変数の値をレポートに記すこと。

行	flag
1	-
2	-
3	0
4	0
5	1
6	1
7	1
8	-
9	×
10	×

不定 (決まった値がない)

複数変数がある場合、列を増やす

値が0

値が1

変数解放

```

1 #include<stdio.h>↓
2 int main(void){↓
3     int flag=0;↓
4     printf("好き:1, 嫌い:2 :");↓
5     scanf("%d", &flag);↓
6     if(flag == 1){↓
7         printf("%d: 好き\n", flag);↓
8     } else {↓
9         printf("%d: 嫌い\n", flag);↓
10    }↓
11 }↓

```

6. 左側2箇所をホチキスで閉じること

7. レポート提出日時と場所

日時：授業開始時間(9:20)から10分後(9:30)まで

場所：当教室(4301)

【注意】最終締め切り日を過ぎたレポートは、受理しない。

表紙見本(朱書き部分に記入する)

第2回 if文 レポート

実習日	2018年4月17日	最終締め切り日	2018年5月15日
第1回提出日	2018年4月24日	第2回提出日	2018年5月1日
第3回提出日	2018年5月8日	第4回提出日	2018年5月15日

ここ(2か所)をホチキスで閉じる

学生証番号	OBJK0000
氏名	高輪 太郎

教員記入欄

受理日

内容（プログラム、実行結果）作成見本

【問題 1】

■プログラム

```
#include<stdio.h>
int main(void){
    // 変数宣言
    int a, b;    // 大小を比較する変数の宣言

    // 変数 a, b の入力
    printf("a=");    // 変数 a を入力するためのメッセージ
    scanf("%d", &a); // 変数 a の入力
    printf("b=");    // 変数 b を入力するためのメッセージ
    scanf("%d", &b); // 変数 b の入力
```

文字の大きさ：10.5 ポイント
日本語のフォント：MS 明朝または MS ゴシック
プログラムの英数字フォント：Century, Times
NewRoman, Aarial 等を使用する。

// 変数 a, b の大小比較

```
if(a > b){
```

.....//a の方が大きい場合の出力

```
.....printf("a の方が大きい¥n");
```

```
} else if(a == b){
```

.....//a と b が同じ場合の出力

```
.....printf("a と b が等しい¥n");
```

```
} else {
```

.....//a の方が小さい場合の出力

```
.....printf("b の方が大きい¥n");
```

```
}
```

```
}
```

プログラムにはコメントを付けること。

インデントを正しくつけること。

■実行結果

(1) a の方が大きい場合の出力結果

```
$.a.exe
```

```
a=-1
```

```
b=-23
```

a の方が大きい

(2) a と b が等しい場合の出力結果

```
$.a.exe
```

```
a=123
```

```
b=123
```

a と b が等しい

(3) b の方が大きい場合の出力結果

```
$.a.exe
```

```
a=3
```

```
b=4
```

b の方が大きい

実行結果が複数存在する場合、if 文をなるべく網羅するようにする。

ページの終わりに余白があっても、改ページを行い、次の問題は、「次のページ」に掲載する。